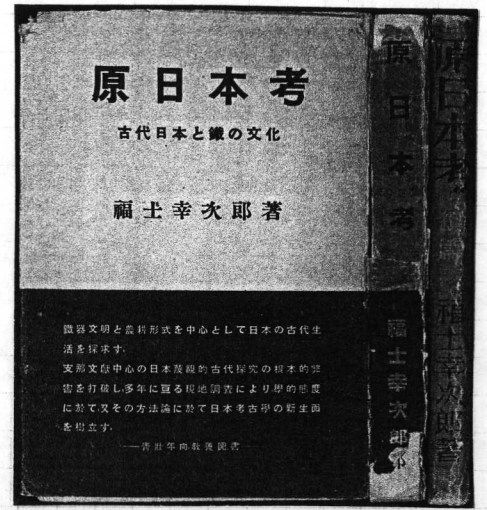


福士幸次郎 ゆきじろ 詩人。明治二十一年十一月五日青森縣生れ、昭和二十一年十月十一日歿（八八九—一九五〇）。筆名太陽の子、福士、福士太陽の子、福士幸、一郎、福士白燕、福士畫枿、福士畫雨等。明治四十一年國民革命學會理事。翌年詩誌『自然と印象』の詩を發表。大正九年千家元庵等と『コングロツタ』を、翌年『生活』を、四年江馬修等と『テール』を發刊。六年詩話會結成に参加。のち評論、民俗學研究に終行した。

譯著書『トルストイ叢書・二イーワン・イリイツチの死』（譯、大正五年十月二十七日新潮社）、『トルストイ小説文庫・二イーワンの馬鹿』（譯、大正六年二月十五日新潮社）、『展望』（大正九年六月十日新潮社）、レオン・ウエルト著『ボナーの寶蹟』（譯、大正十一年四月一日日本美術學院「世界現代作家選」）、ビクトル・マリ、エーゴール作『威威主』（譯、大正十一年八月十五日冬夏社）、『トルストイ文庫・二イーワンの馬鹿の話』（斎藤利夫共譯、大正十一年二月十八日新潮社）、『現代詩人全集・第十卷—福士幸次郎集』（昭和四年十一月十五日新潮社）、『日本現代詩研究』（合著、白田京治編、昭和五年二月十五日金座堂「現代詩講座」特裝本）、『詩の話』（昭和五年十一月五日玉川學園出版部「兒童圖書館叢書」）、『原日本考—古代日本と鐵の文化』（昭和十七年五月十五日愛知・白馬書房）、『郷土と觀念』（昭和十七年十月十五日育



と觀念』（昭和十七年十月十五日育

生社弘道閣「新世代叢書」(一)、可原日本考・續篇(昭和十八年九月)

五日愛知・二寶書院(等)。